

かえで幼稚園その後

土橋 克子

「史料室だより」(No.48、1998年)に本園の創立25周年特集が組まれてから数年が経過した。此の度、創設とともに28年間を子どもとともに過ごしてきた筆者が退職するにあたりその後の変化を、記録することになった。

21世紀を目前にして本園は、短期大学から大学への学院の大きな変革の中で、短期大学部付属かえで幼稚園から大学付属かえで幼稚園へと名称変更がなされた。一方、少子化による乳幼児減少から近隣の園は何らかの影響を抱える中であって本園は、隣接する園とともに、方針としてスクールバスや給食を実施せずとも定員数を確保してきた。最近では、本学院の卒業生を保育者に迎え、また子どもたちの中には園児二世たちが入園するなどこの地域にしっかりと根づいた唯一キリスト教による保育を行う幼稚園として評価され、今日に至っている。しかし、ここ数年の間に特に子どもをとりまく社会状況は大きく変化してきた。それは乳幼児を抱える家庭にとって子育てにきびしい環境となっている。そこで母子によって持ち込まれる様々な問題を受けとめ支援することを保育の現場に求められる機会が多くなってきている。

本園が位置する田園都市線沿線は東急電鉄の開発とともに発展してきた新興住宅地であることは今までにも記してきた。住民の大多数が世代的にも経済的にも文化的にも同じような背景にあるためその時代の世相を比較的顕著に捉えうる土地柄である。例えば、日本が経済的に高度成長期にあった時代では海外へ単身赴任する父親不在が話題となった。また、大人の管理下にあえぐ子どもの問題、画を符号でしか表現できない子どもの問題、最近では小学校の学級崩壊が全国に先がけて取り上げられている。その

他いろいろな個性を持つ子どものこと、子育てに不安を持つ母親の増加等々、多様化するケースをかかえ、時には地域の専門機関と連携しつつ解決に当るなどの母親支援が不可欠となってきている。次にその対処の実践途上にある事柄を記録する。

① 保育時間を柔軟に考える。

基本姿勢として保育時間という大枠についても柔軟にとらえようとする試みを行う。

② 父母の日常保育への参加(実習期間を除く)。

父親の保育参加については土曜ワークの日として創設時から行ってきたが、母親の保育参加を平常保育の中で実施。他児と接することにより、我が子の見方、接し方を見なおす機会として計画。

③ 「おしゃべりタイム」の実施(月1～2回)。

子育て不安に因應するため午前中二階集会室で開催。園長が相談役として参加。30名前後が参加。

④ 「子どもの広場」実施(年4～6回)。

子育て支援の一環として未就園児の母子を対象、毎回40組の参加。希望者多数のため整理券を発行。

⑤ 「保育研究日」の実施(月2～3回)。

大学の先生方や市療育センターから来園を願い保育後に勉強会をもつ等。

これら実践の経過ともう一つの重要な柱であるキリスト教保育の継承など今後詳しく報告されよう。多くの方々を支えられてきた事に感謝し、かえで幼稚園の今後の発展を祈りつつ筆をおく。

(前かえで幼稚園園長、大学非常勤講師)

史料室の歩み (I) 1985年～1991年

芝原 翠

史料・資料 史料：歴史記述の素材。歴史の研究または編纂に必要な文献・遺物。文書・日記・記録・金石文・伝承・建築・絵画・彫刻など。資料：もとなる材料。特に、研究・判断などの基礎とする材料（広辞苑）。

史料室の業務 資料の収集、整理、保管、主題別リスト作成、提供（室内閲覧）等。

1985年3月定年退職を前にして1954年度から個人に配布された印刷物を焼却した。4月からは在職中から担当の科目を非常勤講師として週1回出校する生活が始まった。同年10月22日に田島信之院長から「史料室の仕事をするように」との話があり、辞令を受けて11月5日から嘱託として週1回の勤務が始まった。

短期大学図書館の「特別資料室」とドアで接している書庫の三層の部分が翌年短大が横浜校地に移転後「史料室」（正式には東洋英和女学院法人事務局史料室）となった。

仕事の手始めは『東洋英和女学院百年史』用収集資料（学内所蔵に限る） 創立100周年準備室 1984.9.20」のリストと史料室に運び込まれた資料との照合と整理であった。

『東洋英和女学校同窓會報告』は欠号が多く、東光会保管の号数と突き合わせてコピーをして補充し合ったが完全ではない。會報の内容は明治29年（1896年）12月号には、會計報告、聖婦論（平岩牧師の演説概畧）、去秋以来入會者姓名、舊教員並に職員、明治29年度印刷料納者姓名、雑録（宣教師、他教師の動行等）であり、東光会名簿には記載がなかった在学者の有無の問い合せに応じることができた。

個人リスト作成 歴代校長、院長に関する文献、記事等の収集をはじめ。まず初代Miss M. J. Cartmellから第17代Miss F. G. Hamiltonまで10人の宣教師校長の自筆資料、関係記事、関連資料を図書、雑誌、紀要、新聞等から検索して人名毎に仮ファイルにしたが、リストは未完である。

一つの段ボール箱には「カナダ合同教會婦人ミッション宣教五十年 東洋英和女学校新築落成記念婦人大會11月9日」のビラ及びポスター（手書）。「本校新築落成並にカナダ合同教會婦

人ミッション宣教五十年記念式」案内葉書。

「Dedication of New Building Toyo Eiwa Jogakko. Fiftieth Anniversary of Mission Woman's Missionary Society United Church of Canada. 東洋英和女学校新築落成並ニカナダ合同教會婦人ミッション宣教五十年記念式」プログラム。「學校及學部史1883～1894」（手書）。「五十年史材料蒐集帳帳」小澤房子所有ノート。「東洋英和女学校五十年史編纂記録」小澤書記ノート。「東洋英和女学校新築落成祝賀諸集會表」原稿。「落成式等出席、欠席」原稿。「目錄」學校新築工事概要、新築校舍圖面、學校一覽、新築校舍繪端書、落成プログラムの原稿（青焼き）。「『東洋英和女学校五十年史』預約募集趣意書及び預約申込書」五十年史販賣委員。「英文原稿の写」他、募集原稿。「生徒の校歌（詞）」募集原稿。TOYOEIWA SCHOOL SONG. Words by W. M. Vories, Music by Teruo Yoneyama, Dec., 1934。「東洋英和女学校文藝會」主催 校友會、後援。同窓會、建築基金募集のため（プログラム）。「文藝會 ADMISION ¥1:50, ¥1:00, ¥50」。「聖劇『生贖』の筋書」。「文藝會及び運動會の入場券」。Estimate. Omi Sales Co., 1933. 3. 1～8. 12。「賣上明細書」小川齒科器械店、1933. 12. 21。「音樂的環境調査、昭和9年（1934年）10月現在」（用紙）。English Course（タイプ印刷）。「本科及師範科ニ課スル聖書教授法考案」「小學校ニ課スル聖書教授法考案」（手書謄写印刷）他が入っていた。これらの資料は項目別にVFに挿入した。一点ずつ記録したカードをもとに『東洋英和女学校五十年史編纂資料』58点のリストを作成した。

1933年に竣工した女学校新校舍も60余年の歳月を経て新校舍改築のために解体された。

定礎開函（1993. 9. 14）収蔵15品目。

○東洋英和女学校新築校舍定礎式順序 ○東洋英和女学校沿革 ○理事及教職員名簿 ○同窓會建築資金募集趣意書 ○建築委員及設計監督者請負人氏名 ○高等女學科学則 ○幼稚園師範科学則 ○成績簿 ○通知簿 ○同窓會會員名簿、會報 ○校舍設計図 ○コイン（日本、カナダ） ○聖書（文語訳 1927年刊） ○新

開類（5種）。

中学部校舎（1982開函） 収蔵13品目、短期
大学校舎（1992.7.10開函） 収蔵9品目も在
庫している。

幼稚園師範科に関する資料は度々の校舎の移
転で散逸したのであろうか原資料が殆どない。

「東洋英和女学校枇杷の會」（師範科同窓会）
発行の『枇杷』1～8号（1925～1932）が卒業
生から寄贈。児玉みつ氏から1915～1916年に梅
花幼稚園保母伝習所で使用した「恩物」「縫ひ
取り」「お仕事」「グリーンボード、年中行事、
指導製作」が寄贈された。「幼稚園師範科・保
育科」梅花幼稚園初期、1916年、1930～1973年
のスライド66コマが保育部会から短大図書館に
寄贈された。コマ毎の説明書のリスト（コピー）
が史料室に入った。これら少い資料も歴史を
語り、宣教師の先生方の教育に対する姿勢、そ
れぞれの時代の教師達の教育内容、また学生気
質なども伝えてくれる。

段ボール箱一杯の写真が出てきた時にはどこ
から手をつけたらよいかと愕然とした。まず一
枚ずつ裏面の記入で年別に分け、次に月日順に
重ねて袋分けにした。裏面に記入のないものは
集合写真などは拡大鏡で教師や友人の姉達を探
して見当をつけたり、存じ上げている同窓の
方々を見付けて写真をコピーして送って教えて
いただいたり、さまざまな手掛りを得ながら少
しずつ片付けた。戸棚に年代順にアルバムを並
べたが、最後に「不明」が1冊並んだ。個人か
らの写真帳も並んでいる。卒業アルバムは揃っ
ている部と史料室に入れていない部がある。

資料収集 「各部で保管しておくもの」 資
料の種類別を項目（主項目と細項目）に分けた
表を小学部野田文一郎、中高部朽木久子両先生
と史料室が作成した（1976.12.2）。各部で検
討の後、部で保管するものと史料室に納めるも
のを決めた。以降各部から印刷物等が順調に
届けられている。

主項目（細項目割愛）1カナダミッション
2設立・歴史 3学制 4風俗・事件 5経営
6学事 7教育方針・内容 8人物 9広報
10学外通達等 11同窓会 12後援会・母の会
13同盟・姉妹校

収集・整理 1図書資料 東京都年史、港区
史、教会史、キリスト教関係者の伝記等、他校
の年史、本学院関係、本学院関係者、その他。

整理 1冊ずつ図書カードに内容記入。図書

は書架に配架する。2逐次刊行物 会報、紀要、
パンフレット、新聞等は逐刊カードに納入日、
巻号等を記入し必要に応じてインダーやファ
イルに綴じ込んで所定の場所に配架する。3一
枚ものなどはVFに項目別に挿入する。4マイ
クロ資料、視聴覚資料、写真、フィルム、テー
プ、CD等は保管方法に注意する。これらの資
料は1点ずつカードに記入する。学院関係の人
物は副出する。記録したカードはカードボック
スの見出し（項目）個所に五十音順に配列して
目録化する。目録化すると形体が異なる資料は
保管場所が個個別別になるがカード上では同一
主題が集まる。

夢 機械検索 カードで処理をしていたもの
がコンピュータ入力となると整理作業の時間は
短縮し、資料の所在は即座に調べることができる。
また主題別のリスト作成も容易になる。各部保
管の資料もデータを史料室に送っておけばリ
スト上では一つになる。なお、インターネット
で山梨英和学院、静岡英和女学院、東京女子
大学、遠くカナダのミッション等との情報交換
も夢ではなくなる。もっとも在庫資料全部を入
力することは莫大な労力を要するであろうが。

資料提供・受贈 卒業論文作成の学生や研究
者の来室は調査対象の多くが本校の卒業生、宣
教師、カナダ婦人宣教師、校舎に関することで
あった。手紙や電話での問い合わせもあったが
明治・大正期の在校生に関しては資料が少なく
十分に答えられなかった。自校の年史編纂に関
連しての問い合わせや資料のコピー依頼、「学校
名称変更」の調査依頼、「過去における在日カナ
ダ人調査」依頼、TV「赤い靴のキミちゃん」
作成のため調査来室、『鳥居坂わが学び舎』
編纂用写真の調査来室等々であった。

次第に史料室の存在が知られて学院関係者の
著書や在学中の資料が持参されたり郵送され
たりして貴重な資料が増えた。欠号探しを積極
的にしてくださった卒業生など協力者も多くあ
った。

おわりに 『目で見る東洋英和女学院の110
年』の編纂に携わり特に実務作業となった1994
年度は史料室勤務日も余儀無くそれに当てざる
を得なくなり、3月に退くことを承知しながら
も中途半端のまゝで鳥居美子先生に引き継いで
いただいたのは申しわけないことでありました。
（元短期大学図書館主任司書、元史料室嘱託）

史料室の歩み(Ⅱ) 1991年～2001年

鳥居美子

史料室第一期の芝原先生が、その基礎を造られ私が仕事に着いたのは、1991年、丁度学校を定年退職して講師となり、時間も余裕が出来た時であった。お伺いしてみると、未だ中高旧校舎(旧本館)にあった資料の入ったダンボールが研究室の中と、その前の廊下に山積みとなって居り、暗い電灯の真中に机がぼつんとある状態であった。書庫の中は、司書でいらした芝原先生が、書籍類を、分類整理されていた。目を引いたのは、百年誌関係のファイルが整理されていたことであった。古い資料は雑然と置かれ、何がどこにあるかわからない。田島先生からの御依頼は、先ず、誰が入っても、どこに何があるか、しっかり分類してわかるようにしてほしいと言うことであった。書庫は冷暖房がなく、五分と仕事をしていると体が動かなくなる。必要事項を取り出し、研究室の方で仕事をするが、学校にお願いして掃除も週一回していただくようにした。週一回の出校では、書庫、ダンボールの整理とで約十年はかかると思われたが途中、助手を付けて下さり、なんとか就任中に終ることが出来、ほっとしたところである。しかし出校して多かったのは、全国各地からの日本初期のプロテスタント関係、明治女性史関係、初期の卒業生のことなどの問い合わせが多く、卒論や出版物だと時間が迫って居り、それに追われる一週間であった。

資料関係は、約半世紀ほど前までは、六本木それもほとんどが旧本館(東洋英和女学校)にあったと言ってよいと思うが、今は横浜校地、そして六本木も各部が独立してその部で資料を蒐集されている。こちらの本部史料室に送られて来るものは限られている。外からの問い合わせも、ほとんど創立初期の頃のことが多く、例えば、長崎テレビ放映の長崎グラバードのトーマス・ブレイク・グラバード氏については、明治の豪商岩崎様との交友……岩崎様も代々お子様達が卒業生ですし、長男倉場富三郎の奥様も卒業生倉場わか様でいらっしやることを知った。又、富山チューリップテレビ放映の為の富山名誉市民でいらした亜武巢マーガレット先生……富山で幼稚園を創設、戦争中も苦勞をなさりながら帰国なさらずお

仕事を続けられ、1960年日本で永眠なさった先生が、はじめて日本にいらっしやったのが、東洋英和女学校、そこで一年教えられ、日本語も学ばれ、長野上田伝道所より金沢から富山に入れ、山の美しい眺めがカナダの故郷に似ている由、そこで御立派な生涯を過ごされたことなど、色々なことがわかると卒業生としてほんとうにうれしいことであった。学校関係者の方々、卒業生達が、昔も今も、学校で学んだキリスト教精神、そして暖かい先輩後輩とのつながり、少しでも助け合って続く友情など何かの機会に知ることが出来る事は、史料室に仕事をする者として、ほんとうにうれしい事であった。

中高部生徒通用門の処は昔「お山」と言われ、校歌にもある「権よ極よ」の大木があった。六本木は名前の如く大樹が多く、鳥居坂通りもそうであった。中庭には紅梅白梅をはじめたくさんの樹木や草花が咲き特にお向かいの李王朝からいただいた「枇杷」の木は実が成り皆で初夏を楽しんだ。昭和の初期の卒業生達は特に好きだったとの事、「枇杷」という文集が多く発刊されている。新校舎新築の時、失われそうになり本部にお願いして今も南側に小さくなりながらも残っていることは、ほんとうにうれしいことだ。各部でも思い出の大木が必ずあるようで、ぜひ記録に残し保存してほしいと思う。

今史料室で問題になったことは、「校色ガーネット・ゴールドの正式な色は」と言うことである。この色(ガーネット・マリーゴールド)は昭和の初期ミス・ハミルトン先生の御指導のもと、カナダのセーラ服の色を戦前フランセ洋服屋さんがカナダより何回も染料を取寄せ完成した色で、現在使われている本の表紙、学校案内やパンフレットの表紙などに使われている「えんじ色」とはちょっと違う。カラー印刷は戦後のもので、ネクタイの色はもう少し「深紫色」である。これが表紙になると少し暗いと思うし、「えんじ色」に統一することは大変なことであろう。ネクタイも現在は化学染料になり「昔のネクタイ色と今と違う」と戦後のネクタイについて先輩の方々もおっしゃっている。

(前史料室囑託、元中高部教諭)

史料室の歩み(Ⅲ) 現在

谷川 祐子

芝原先生、鳥居先生の後を継いで、今年四月より史料室を担当しております。

今史料室がどこにあるか御存知でしょうか。昨年秋までは法人事務局の3階にある旧短大特別資料室にありましたが、大学院の授業の関係で今は中高部の5階に、仮住まいをしています。資料及び、書籍類は従来通り旧短大図書館3階書庫を使用しているのです、2つの建物を行ったり来たりしています。

お二人の先生方が大変御苦労なさりと、長い年月をかけて膨大な未整理資料を整理・分類して下さいましたので、今現在の史料室の活動内容は主に次の3点が中心です。

1. 新資料の収集および整理、保管

各部での刊行物・印刷物、同盟校等よりの刊行物、学院や卒業生・学院関係者に関する記事や書物、および執筆された本、数々の寄贈品が史料室に集められ、整理されます。最近寄贈された資料にはミス・カートメルと初期の宣教師の先生方の写真一枚、その当時の在校生の写真一枚。(両写真とも写っている方の名前がすべて記されています。)大正時代に幼稚園師範科で教科書として使用されたフレーベル著『母と子の遊戯』上・下巻。この本に付随する手技の時間に制作したと思われる屏風折のノート。そこには、折紙と、二色の細長い紙を編んで作った、たたみ紙(Weaving)が貼られています。1959年の保母養成施設申請書。太平洋戦争当時の英和での学生生活の手記。昭和初期の卒業アルバム、等があります。

2. 各方面からの依頼・問い合わせへの対応

私が史料室にかかわってからのものとしては、雑誌社からの初期の制服の写真的依頼、亡くなられた先生の追悼会のための御写真の依頼、初期の宣教師の先生に関する問い合わせ、明治期のオルガン教育に関する史料の閲覧、等があります。ロシア人の東洋学者で、民俗学者・言語学者としても知られ、柳田国男・金田一京助らとも親しかったニコライ・ネフスキー(1892~1937年)の娘の一人の若子さんが東洋英和に在籍していた事が最近わかり、その研究者の方から、まだ一枚もみつからない若子さんの写真を

どうしても入手したいという依頼がありました。しかし卒業していないので卒業写真がなく、多くの方々に御協力を頂き、やっと写真を持っていらした若子さんの同級生を捜すことができました。

その写真をもとに、卒業アルバムのスナップや『目でみる東洋英和女学院の110年』の中からも若子さんを捜し出す事ができ、計3枚の写真がみつかり、皆で大喜びしました。しかし若子さんが19才の若さで亡くなられていた事は残念な事でした。

3. 『百二十年史』編纂への準備

百二十年史編纂委員会への出席、年史作成のための資料収集、年表作成、原稿整理、執筆等を行なっています。

今後の課題としては、個人的には、今までに整理された資料の内容と保管場所を把握する事、資料室としては、まだ未発掘の資料をどのように集め、どのようなシステムで整理していくのか、各部での保存と史料室での保存の関係をどのようにしていくか、開かれた資料であるべく、コンピューターによるデータ・ベースの作成をどのようにすすめていくか、等があげられます。

貴重な資料が学院にかかわるすべての方々のものであるように、収集・整理・紹介の具体的方法をはじめ、よりよい史料室のあり方を、各部の先生方より構成されている史料室委員会で検討しつつ、120年になろうとしている学院の歴史の積み重ねの上に、輝ける未来を築く一助になり得る存在でありたいと切に願っています。最後に資料収集への御協力を心からお願いいたします。

(史料室嘱託、中高部非常勤講師)



ミス・カートメル(右)と初期の宣教師の方々

松尾芳子先生の思い出

丹羽淑子

松尾先生に初めてお目にかかったのは、1953年11月、短大開学の前年であった。英文科に就任が決定して、広島から上京し、長野彌院長にご挨拶に伺った時、確か土曜日の午後だったと思う。静かな校舎の中、院長室で松尾先生も同席で迎えていただいた。先生は背を伸ばして椅子にきちんと腰掛けていらしたが、お住まいは近くだったらしく、髪の設定中急な連絡にスカーフを被った姿のまま駆けつけてこられたようだった。その姿に私の緊張は解けリラックスできたのだ。後日その日のことが話題に上り、先生はあんなに緊張したことはない、まるで鉄兜を被って自分が面接を受けるようだったと笑いながら仰しゃった。先生には気品があり、この上なく真面目な方であるにも拘わらず、相手をほっとさせるようなユーモアがおありになった。これはリーダーとして優れた資質である。

私は、上司としての先生に支えられたと深く感じたことが何度もあった。一つは大学教員に当然与えられる筈の「研究日」で、草創期の英和で、専任教職員会での私の申し出がかなり重い議題となったが、先生の理解と支えがあったお陰で週一木曜日を研究日として戴くことができた。以後研究生生活を続けることができ、70年に学位を授与された時には我が事のように喜んでくださり、ご主人からは「星一つ花の梢にきらめける」という身に余る句を戴いたのであった。

当時学生だった卒業生の一人が、先生の思い出をこのように語ってくれた。「先生にお習いした英米国史の授業内容は覚えていない。でも、先生はそっと肩に手を置いて親身になって、私達の相談にのってくださり、その肩に感じた温かいぬくもりは今も忘れられない」と。また、「先生は西洋式マナーに厳しい方で、教えていただいたマナーのお陰で、卒業後の外国生活でも自然体でどんな場にも臨むことができた」とも。現に私は、先生が指導しておられる場に何

度も出会ったことがある。これは学生部長としての私の仕事でもある。先生のご指導ぶりは、大変適切であったと感心したものである。

先生は科長としての重責を負いながら仕事と家庭を両立させておられた。先生と私はよく似た半生を生きてきた。二人共公立高女出身でキリスト教主義の学校に入って信者となり、英米文化に心酔し学問の面白さに魅せられ、同じく30代半ばで単身留学し、専門分野を見つけ家庭と仕事の両立で苦勞しながらいずれも棄てられず、欲張って人生を歩んできた。15歳上の先生は1983年11月22日、85歳で召天された。先生とのユーモラスな出会いから何年が経っているであろうか。感謝と懐かしさで、先生と過ごした頃の様々な心象風景が、今瀬戸の海、宮島の対岸にあるケアハウスの明け暮れに次々と展開する。

(元短期大学教授)



松尾芳子先生略歴

- 1898年 生まれ
- 1918年 東洋英和女学校高等科卒業
- 1926年 山梨英和女学校教員 (1932年まで)
- 1936年 ミシガン大学修了 (M. A.)
- 1936年 東洋英和女学校教員 (1944年まで)
- 1953年 東洋英和女学院短期大学助教授
- 1958年 東洋英和女学院短期大学英文科長 (1963年まで)
- 1963年 東洋英和女学院短期大学教授
- 1965年 東洋英和女学院短期大学退職
- 1965年 東洋英和女学院短期大学非常勤講師 (1977年まで)
- 1983年 逝去